

4月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回5月のてがたんは5月12日(土)で、テーマは「鳥の子育て」です。

4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社下→桃山公園下→藤棚→旧水生植物園
- 観察日時と天気：2018年4月14日(土) 10:00~12:00 曇り
- 参加人数：32名(大人24名、小学生以下8名)
- 市民スタッフ：7名(小泉伸夫、湯瀬一栄、伊東茂子、石原直子、木村稔、竹本周平、弘實さと子、)
- 鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録(下見を含む)

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、コサギ*/クイナ科：クイナ(声)、オオバン*/チドリ科：コチドリ/シギ科：タシギ/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ/ミサゴ科：ミサゴ/タカ科：トビ、サシバ/キツツキ科：コゲラ(声)/モズ科：モズ/カラス科：カケス、ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ツグミ科：シロハラ、ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ、カシラダカ(声)*、アオジ
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【両生爬虫類】

ウシガエル、アズマヒキガエル(オタマジャクシ)、ニホンカナヘビ

【貝類】

ウスカワマイマイ、サカマキガイ、カワニナの仲間

【昆虫】

チョウ目：キタキチョウ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ*、ツマキチョウ、ナミアゲハ、クロアゲハ、ムラサキシジミ、ベニシジミ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、アカボシゴマダラ(幼虫)、オビカレハ(幼虫)/ハチ目：ホシアシブトハバチ*、ヒゲナガハナバチ、コハナバチ/ハエ目：ビロードツリアブ*、ハナアブの仲間、ガガンボの仲間、カスリヒメガガンボ、ユスリカの仲間、ケバエの仲間/コウチュウ目：コガタリハムシ、ハムシの仲間(オレンジ色)、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ヒメアカホシテントウ/バッタ目：ツチイナゴ、ヤブキリ(幼虫)、ヒメギス(幼虫)/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ

【花】

キク科：ハハコグサ、オニタビラコ、ヤブタビラコ、ノゲシ、オニノゲシ、セイヨウタンポポ、オオジシバリ、ハルジオン/ムラサキ科：キュウリグサ/カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ/ハエドクソウ科：ムラサキサギゴケ、トキワハゼ/オオバコ科：マツバウンラン、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/バラ科：ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、オヘビイチゴ/キンポウゲ科：タガラシ/アブラナ科：ナズナ、ミチタネツケバナ、セイヨウカラシナ、オランダガラシ/ヒガンバナ科：ハナニラ/ナデシコ科：ノミノツツリ、ノミノフスマ、コハコベ/イネ科：チガヤ、コバンソウ、スズメノカタビラ、アオカモジグサ、イヌムギ/イグサ科：スズメノヤリ/セリ科：オヤブジラミ/フウロソウ科：アメリカフウロ/シソ科：ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、キランソウ/キョウチクトウ科：ツルニチニチソウ/アケビ科：アケビ、ミツバアケビ/タデ科：ギシギシ、エゾノギシギシ/トウダイグサ科：トウダイグサ/スミレ科：スミレ、ニョイスミレ、スミレの仲間/ブナ科：コナラ/ヤナギ科：シダレヤナギ

観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「春限定」の自然観察でした。鳥や昆虫、花など様々な生きものの、春にしか出現しない種類、春にしか観察できない行動などを探して自然観察を楽しみました。



今月の案内人

小泉伸夫さん

湯瀬一栄さん



①コンクリートの割れ目に生えていたスマレの仲間



②群れで北に渡って行ったヒヨドリ



③春型のベニシジミ



④林縁に咲いていたハルジオン



⑤細い流れで見つけたカワニナの仲間



⑥一年中葉を付ける常緑の植物は、春に古い葉を落として新しい葉を展開させます。シロダモの新葉はふわふわでした。



手賀沼

歩いたルートと観察した生き物



⑨ツマキチョウは、春の一時期にしか発生しない季節限定のチョウ。羽の裏側には緑色の網目模様がありました。



⑦田んぼの脇の草地で捕まえたハシリグモの仲間



⑧卵から孵化したばかりのヤブキリの幼虫



⑩水を入れた田んぼにいたケラ。手がモグラみたい



⑪細いエノキにいたアカボシゴマダラの幼虫



⑫田んぼに伏せて潜っていたタシギ

今月の鳥 タシギ チドリ目シギ科

タシギは、長くちばしと迷彩模様が特徴のムクドリくらいの大きさのシギの仲間です。手賀沼周辺では春と秋に通過するほか、越冬するものもいます。タシギの仲間は互いによく似ていますが、タシギは翼の後のへりが白いことで他の種類と見分けられます。水田の刈り跡などの丈の低い草の生えた湿地を好み、長くちばしを泥の中に入れて探ってミミズや昆虫などの動物を食べます。人間が近付くと、その迷彩模様を生かして伏せて動かず、周りの草の中に溶け込んでしまいます。そのため、足元から「ジェッ」という声とともに飛び立って驚かされることがしばしばあります。いそうな湿地を見つけたら、遠くからそっと姿を探してみましょう。



春と秋に数が多く見やすいタシギ